

畜産ネットワーク ちば

2014年5月19日

第30号

発行所 公益社団法人千葉県畜産協会
〒260-0021
千葉市中央区新宿1-2-3
K&T千葉ビル3階
発行人 森 英介

平成26年度の主要施策について

千葉県農林水産部畜産課

千葉県では、戦略的な産地強化と高収益型農林水産業への転換の促進による「農林水産王国・千葉の復活」と、緑豊かで活力ある農林漁村づくりの推進による「農村漁村の活性化」の実現を目指し平成25年12月に、計画期間を平成26年度から平成29年度までの4年間とする「千葉県農林水産業振興計画」を策定しました。

畜産分野においては、特に「酪農経営の強化と畜産物のブランド力向上」を目指すと共にそれぞれの家畜の生産の効率化や計画生産及び畜産物の品質向上などを講じ、畜産産出額の維持・拡大を図ってまいります。

なお、平成26年度の主要施策は以下の通りです。

1 酪農活性化対策事業

酪農業の活性化を図るため、乳牛の改良や後継牛確保などによる生産能力の向上対策、労働力補完組織の利用による生産基盤の強化などを総合的に推進します。

1) 乳牛改良促進事業

牛群データに基づき、経営改善及び乳牛改良に自ら取り組める中核的農家の育成を図ります。

2) 酪農ヘルパー傷病時利用支援事業

傷病を理由として酪農ヘルパーを利用した場合、その利用料金の生産者負担分の一部を助成することで負担軽減を図り、経営の継続を図ります。

3) 酪農再生・活性化緊急調査検討事業

酪農におけるさまざまな課題に対する酪農家の意向を把握し、指導・助言すべき経営改善策や今後の事業展開の方向性を探るため、緊急調査を実施します。

2 肉用牛ブランド力向上対策事業(チバザビーフ肥育技術向上事業)

平成28年度「東京食肉市場まつり」(一つの県産牛肉の産地と卸売業者が連携して行う大規模な消費拡大イ

ベント)への参加に向けて、高品質な牛肉の生産体制を構築し、県産牛肉「チバザビーフ」のブランド力を高めるため、肥育技術の向上に取組む生産者に対し、優良な県産子牛の導入助成と技術指導を行います。

1) 優良な県産肥育素牛の導入助成

肉質の向上を図るため、優良な県産子牛の導入経費の一部を助成します。

2) 肥育技術指導事業

畜産総合研究センター、農業事務所、家畜保健衛生所など関係機関による継続的な飼養管理調査や血液検査等を行い、肥育技術の問題点を抽出し、改善対策の実践により肉質の向上を図ります。

3) 枝肉品評会開催支援

県産牛肉の市場評価と生産技術の向上を図るため、東京食肉市場で開催する枝肉品評会の経費を助成します。

3 急性悪性伝染病対策事業

急性悪性伝染病が万一発生した場合に備え、防疫資材の備蓄体制の維持、防疫演習や地域ぐるみの防疫体制の強化を図ります。また、県域の高病原性鳥インフルエンザ防疫演習、地域的な口蹄疫防疫演習を実施し、本県の防疫体制をさらに強化します。

1) 防疫体制整備

家畜保健衛生所に緊急時に備えている消石灰等の備蓄資機材の更新、市町村(防疫会)等と連携した地域ぐるみの防疫体制整備や海外からの悪性家畜伝染病の水際防疫の一貫として輸入着地検査を行います。

2) 口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ対策

家畜保健衛生所毎及び県域の防疫演習の実施や高病原性鳥インフルエンザウイルス保有状況調査を実施します。

目次

・平成26年度の主要施策について……………	(1)
・平成25年度第2回通常理事会開催……………	(2)
・平成26年度畜産協会推進体制……………	(2)
・平成26年度主な家畜衛生対策事業の推進について…	(3)
・肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン) ……	(4)
・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信…	(5)

・平成26年度千葉県畜産関係機関一覧表……………	(6)
・チバザビーフ協議会報……………	(8)
・ちば畜産レディースネットワーク会報……………	(9)
・NPC通信(ナイスポークチバ推進協議会) ……	(10)
・平成26年度養豚経営安定対策事業(全国肉豚) ……	(12)
・新規職員紹介……………	(12)

平成25年度第2回通常理事会開催

平成26年3月24日、ブラザ菜の花において、森会長出席のもと平成25年第2回通常理事会が開催され、平成26年度事業計画案及び収支予算案をはじめ全3議案が原案どおり承認されました。

東日本大震災等の未曾有の大災害から3年が経過し、肉用牛の放射能による風評被害等もやっと落ち着きを取り戻しつつあるところです。

しかしながら、飼料の高騰・高止まりや原油、生産資材の高騰は、著しく畜産の経営基盤を圧迫しており、更には、雪害や間近となった消費税率のアップ、TPP交渉の先行き不安等も加わり、生産者の混迷は深まるばかりにあります。

このような状況の中、当協会は昨年4月1日に「公益社団法人」へ移行し、その社会的使命・役割を十分に認識して事業推進に取り組んでまいりました。

平成26年度においても、県民・消費者と畜産経営者、関係団体・行政機関等との密接な連携に努め、安心・安全な県産畜産物が安定的に供給されるよう、畜産経営安定対策、県産畜産物の消費拡大・理解醸成、飼養衛生管理、生産性の向上をより一層推進してまいります。

更に、国・県等の様々な事業に積極的に取り組むとともに、緊急課題や当協会独自事業についても活発に進め、様々な場面で県民・消費者・生産者・関係機関・団体等のお役に立てる団体として努めてまいります。

※公益社団法人への移行に伴い、年2回(3月、6月)の通常理事会、年1回(6月)の定時総会となりました。(総務課 武田)

平成26年度畜産協会事業推進体制

以下の体制で事業推進を図ります。よろしくお願いいたします。(総務課 武田)

【 理 事 会 】		【 委 員 会 】			
会長理事 森 英介		◆家畜衛生評議委員会	◆養豚振興委員会		
副会長	理 事	専務理事 新城恒二			
【 事 務 局 】					
部署・TEL・FAX		職 名	氏 名	主な業務の内容	
TEL:043-242-5417(代) FAX:043-238-1255		事務局長	榛葉 雅和		
「総務・企画部」	TEL:043-242-5417	部長	奥住 英雄	・庶務・会計に関する事 ・経理処理に関する事 ・新公益法人へ移行後の管理に関する事 ・畜産コンサルタント等設置に関する事	
	[総務課] TEL:043-242-5417	課長	武田 善秀		
		主任主事	槌屋 健太郎		
		主事	長嶋 柚子		
	[企画課] TEL:043-242-6333	主事	小倉 崇司	・肥育牛経営安定対策に関する事 ・生産者・流通加工者・消費者との相互理解促進に関する事 ・情報の発信に関する事	
		(兼)技師	飯沼 大輝		
		臨時職員	瀧口 麻美		
		臨時職員	胡口 常代		
	「事業部」	TEL:043-241-1738	部長	山田 真希夫	・畜産経営技術指導、支援等に関する事 ・担い手育成支援に関する事 ・公庫資金、貸付事業等の指導に関する事 ・飼料用米等の自給飼料生産の振興に関する事 ・堆肥の生産、流通等に関する事 ・家畜排せつ物法に関する事
		[経営・環境課] TEL:043-241-1738	(兼)課長	奥住 英雄	
嘱託職員			薫田 耕平		
(兼)臨時職員			石山 操		
[衛生指導課] TEL:043-241-1738		(兼)課長	榛葉 雅和	・家畜の自衛防疫等の推進、指導に関する事 ・死亡牛処理円滑化事業に関する事 ・家畜防疫互助基金造成等に関する事 ・指定獣医師に関する事	
		臨時職員	高橋 早苗		
		臨時職員	石山 操		
[生産課] TEL:043-241-3851		(兼)課長	山田 真希夫	・養豚の振興等に関する事 ・豚の登録、共進会等豚の改良に関する事 ・肉豚の価格補償に関する事 ・肉用牛の生産振興に関する事 ・肉用子牛の価格の安定、生産拡大等に関する事	
		主査	金杉 文一		
		技師	飯沼 大輝		
	嘱託職員	加藤 脩三			
	臨時職員	高橋 真理			
【畜産団体事務局】					
★千葉県畜産物消費拡大推進協議会		★千葉県養蜂協会			
★ナイスパークチバ推進協議会		★千葉県自家検定推進協議会			
★ちば畜産レディースネットワーク		★NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター			
★千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会		★チバザビーフ協議会			
		★千葉県馬事畜産振興協議会			

平成26年度主な家畜衛生対策事業の推進について

畜産協会では畜産農家自らが行う防疫活動に対して、市町村家畜防疫会、家畜保健衛生所及び関係機関・団体・業者の皆さんのご協力のもとに、各種支援事業の推進にあたっております。

平成25年度事業実績のうち、牛対策関係では死亡牛頭数が最近5か年実績で最も少なく1,400頭を割り大幅(20%程度)に減少しております。要因としては県内乳用牛頭数の減少、夏場の気温(特に残暑)及び疾病の早期発見・早期治療等の影響によるものと推察されます。また、豚対策関係ではオーエスキー病清浄化について、ワクチン接種の徹底に加え種豚全頭検査による感染豚のとう汰が精力的に行われた結果、20年来の悲願であった清浄化達成まで今一步の段階へと大きく進展が見られました。馬対策関係では軽種馬生産に変わって乗馬クラブの台頭により乗用馬の馬インフルエンザワクチン接種が693頭と大幅な増加が見られました。

こうした状況を踏まえて、平成26年度もこれら事業を継続すると共に、新たなニーズへの対応として牛白血病対策に取り組むところであり、下記のとおり各種事業を展開してまいります。

なお、農家へ交付される補助金は、事業終了後、事業費の確定に基づき補助単価を算定の上、年1回随時支払われることとなります。(下表の26年度補助単価は補助上限額を示したもので補助交付単価ではありません。当協会では補助上限額の交付を目指し予算確保に努めています。)

(畜産農家への各種補助事業の26年度計画と25年度実績)

区 分	平成26年度事業計画		平成25年度事業実績		備 考
	補助単価	補助頭数	実績単価	実績頭数	
牛病対策関係					
ヨ一ネ病対策(新)	260,000 頭/円	10 頭	-	0	評価額の2/3
牛白血病対策(新)	1,729 頭/円	773 頭	-	0	検査料は1/2
異常産3混りワチ	128 頭/円	10,000 頭	128 頭/円	9,840 頭	定額
異常産7加初ワチ	128 頭/円	6,000 頭	111 頭/円	4,836 頭	定額
死亡牛処理関係					
ア 輸送費A	2,000 頭/円	1,440 頭	2,000 頭/円	1,369 頭	定額
イ 輸送費B	1,500 頭/円	575 頭	1,500 頭/円	526 頭	定額
ウ 輸送費C	2,000 頭/円	865 頭	2,000 頭/円	843 頭	定額
エ 化製処理費	7,500 頭/円	1,413 頭	7,500 頭/円	1,338 頭	定額
豚病対策関係					
オーエスキー病ワチ	38 頭/円	1,400,000 頭	38 頭/円	1,462,540 頭	定額
オーエスキー病抗体検査	1,000 頭/円	6,341 頭	1,000 頭/円	6,834 頭	検査料は1/2
オーエスキー病淘汰助成	16,000 頭/円	500 頭	9,000 頭/円	1,262 頭	定額
馬病関係(軽種馬)					
馬インフルエンザワチ	925 頭/円	140 頭	838 頭/円	90 頭	1/2・1~2歳
3種混合ワチ	1,415 頭/円	145 頭	1,415 頭/円	96 頭	1/2・1~2歳
日本脳炎ワチ	335 頭/円	60 頭	335 頭/円	44 頭	1/2・2歳
馬鼻肺炎ワチ	3,645 頭/円	45 頭	3,645 頭/円	30 頭	1/2・繁殖牝馬
馬病関係(乗用馬)					
馬インフルエンザワチ	1,860 頭/円	700 頭	1,743 頭/円	693 頭	1/2

(注意!!) 沖縄県で7年振りに発生した“豚流行性下痢(PED)”が全国的に流行する中、本県においても30年振りに発生が見られ、3月27日の初発以来5月13日までに68例の発生を見た。県では養豚農家に対して異常豚の早期通報と飼養衛生管理基準の徹底を指導すると共に、県内と畜場における消毒の徹底、加えて発生地に9か所の消毒ポイントを設置し養豚関係車両等の通過を指導する等、懸命な感染拡大防止対策が実施されており、一日も早い終息を切に願うところです。(本病は水様性黄色下痢を主徴とし哺乳子豚の死亡率が高く、経済的被害が大きく、糞便中に排出されたウイルスの経口感染で伝播する届出伝染病である。)(事務局長 榛葉)

わたしたち森久保薬品は
人と動物の「これから」を真剣に考えています。

 **森久保薬品株式会社**
http://www.morikubo.co.jp



肉用牛肥育経営安定特別対策（新マルキン）事業

1 生産者積立金単価の変更について

平成26年度の肥育牛1頭当たりの生産者積立金の額について下記のとおりとなりました。

	平成26年度		25年度	24年度	23年度	22年度
	生産者積立金	積立金総額	生産者積立金単価			
肉専用種	18,000 円/頭	72,000 円/頭	18,000 円/頭	13,000 円/頭	13,000 円/頭	20,000 円/頭
交雑種	30,000 円/頭	120,000 円/頭	30,000 円/頭	30,000 円/頭	25,000 円/頭	27,800 円/頭
乳用種	20,000 円/頭	80,000 円/頭	25,000 円/頭	30,000 円/頭	18,000 円/頭	15,000 円/頭

2 補填金単価の算定方法の変更（消費税の取扱い）について

平成26年度4月販売分より、消費税率の変更に伴い、算定方法が従来からの税込み（5%）から、税抜きに変更されます。

3 配合飼料価格安定制度の見直しに係る概算払方式の導入について

新マルキン事業については、特例措置として毎月払いが実施されておりますが、新マルキン事業補填金の算定に係る配合飼料価格安定制度の補填金単価の確定が平成26年度より四半期後へと変更されました。

これに伴い、新マルキン事業に係る補填金単価の算定において一部データが確定しないため、交付時期が遅くならないよう、毎月払いを基本とする概算払い方式が導入されることとなりました。

具体的には四半期のうち前二月は暫定単価での概算払となり、最後の月で精算払いをいたします。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
現 行	データ 集計								
	算定 (支払)			支払 (1月分)	支払 (2月分)	支払 (3月分)			
見 直 し 後	データ 集計								(4~6月分決定)
	算定 (支払)						概算払 (4月分)	概算払 (5月分)	4・5月不足分精算払 6月分支払

...データ確定

...データの一部が未確定

4 肥育牛補填金単価について【平成26年3月販売分】

毎月払いが継続して実施されております、引き続き販売報告の漏れがないようお願いいたします。(企画課 小倉)

区 分	肉専用種	交雑種	乳用種	区 分	肉専用種	交雑種	乳用種
粗収益 (A)	923,438	555,817	349,209	平成26年2月	-	47,400 (35,500)	51,900 (38,900)
生産コスト (B)	904,216	630,936	425,952	平成25年1月	-	40,700	42,600
差額 (C) = (A) - (B)	19,222	75,119	76,743	平成25年12月	-	6,900	45,300
補填金単価 (C) × 0.8	-	60,000	61,300	下段()書きは積立金免除牛補填金単価			
補填金単価 (積立金免除牛)	-	45,000	45,900	①販売確認申出書は販売月の翌月の20日までに各事務委託先に提出(厳守) ②出荷時には即家畜改良センターに転出届の手続きをして下さい。(届のない牛は補てん金の対象外となります。)			

100円未満切り捨て

瞳は未来を見つめてる。



動物 未来 みつめる ひろがる



ZENOAQ

動物用医薬品 製造販売

日本全薬工業株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

URL : www.zenoaq.jp

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信

去る4月30日(水)午後1時30分から平成26年度第1回理事会が公益社団法人千葉県畜産協会会議室に於いて開催されました。はじめに松田理事長の挨拶、公益社団法人千葉県畜産協会新城専務理事の来賓挨拶のあと、理事長の進行で、平成25年度事業実績報告及び26年度事業計画等について協議しました。その主な内容についてご紹介します。(事務局 薫田)

平成25年度事業概要

平成25年度は、円安による原油や穀物等の高騰による飼料や資材費の上昇に加え、少子高齢化の進展に伴い消費の停滞、円安による畜産物の輸入の増加等畜産環境は厳しい状況にありました。国では景気対策等により様々な事業がメニュー化され公募されました。

こうした状況の中、国や県及び関係機関の支援を得て公募事業や県の委託事業等を積極的に取り組むとともに、安全・安心・高品質な畜産物の安定供給のため、経営の安定、生産性の向上、畜産への理解増進等に努めました。

(1) 千葉県農場HACCP推進指導事業の一部委託 (千葉県畜産協会) 平成23年度～25年度

本事業は(公社)千葉県畜産協会から事務の一部を受託し、中央畜産会が実施している、農場HACCP推進農場の指定又は認証を希望する農場へHACCP指導員を派遣して指導・助言及び県内への農場HACCPの普及推進に努めました。

平成25年度農場HACCP推進農場の指定：3農場(豚2、鶏1)
 現地指導：11農場(牛2、豚6、鶏3) 指導回数：延60名
 公益社団法人中央畜産会主催の農場指導員養成研修会へNPO会員を派遣：1名(3日間)

(2) 平成25年度食の安全・消費者の信頼確保対策事業(家畜生産農場清浄化支援対策事業)内の農場飼養衛生管理強化対策(農林水産省 公募事業 平成24年度～)

県内畜産農家のうち本事業で定めた一定規模の農場であって、生産者自ら飼養衛生管理の向上に取り組もうとしている農家等に対して、指導獣医師等を派遣し指導・支援を実施し、もって、県内における衛生管理の向上に努めました。

指導推進計画の策定：指導チェック表の作成、推進委員会・検討委員会・推進会議：延9回
 事業説明会等：3回
 意向調査：県域団体等の協力のもと実施回答181農場
 飼養衛生管理強化のための農場指導：牛28農場、豚13農場(指導獣医師等 延41名)

(3) 平成25年度6次産業化ネットワーク活動交付金 (推進事業)

(ひふみ養蜂園(株)6次産業化推進ネットワーク事業 千葉県農林水産政策課 公募事業)

ひふみ養蜂園(株)は南房総地域で養蜂業を営んでいるが、安価な輸入品が増加し消費者も本物の「はちみつ」の味を知らない時代となり、販売も低迷しています。また、農業者である龍崎滋氏は館山市農産物直売所連絡協議会代表でもあり、野菜の価格が長期低迷傾向で付加価値の高い販売ルートを模索しています。

こうした状況を踏まえて、今般、当NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンターが事業実施主体となり、農林水産省の6次産業化ネットワーク活動交付金(推進事業)において当県南部で養蜂業の6次産業化実現に向けて取り組みました。



推進会議の様子



黒ゴマハニー、しょうがはちみつペースト



トマトはちみつペースト、バニラはちみつアイスクリーム

平成26年度事業計画

今年度はNPO法人としての活動を開始してから8年目です。昨今、TPP問題や円安、飼料高騰等先行きが不透明なところも多い状況にあります。畜産振興に向けて行政・団体・業界から畜産に係る公募事業や調査研究の受託に努めるとともに専門部会や会員に重点を置いた活動を積極的に推進します。会員の皆様の更なる積極的な参加をお待ちしております。

【平成26年度総会】

日時：平成26年5月28日(水)13時30分から
 場所：千葉市生涯学習センター「メディアエッグ」千葉市中央区弁天3-7-7

【平成26年第1回畜産研修会】

日時：平成26年5月28日(水)14時30分から(総会終了後)
 場所：千葉市生涯学習センター「メディアエッグ」千葉市中央区弁天3-7-7
 演題：「千葉県畜産の現状と課題」(講師 千葉県農林水産部畜産課長 松木 英明氏)
 ※畜産研修会終了後(16時30分頃)、「情報交流会」を予定していますので、是非こちらもご参加ください。

◎入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局
 (公社)千葉県畜産協会内)
 TEL:043-241-1738 FAX:043-238-1255

正会員 76(内、団体10) 賛助会員 2(団体)

平成26年度 千葉県 畜産関係機関一覧表

農林水産部	〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1		部署	職名	氏名
部署・TEL	職名	氏名	病理生化学課	技師	福井 陽士
043-222-2800	部長	麻生 恵		任用職員	久保 正法
043-223-2801	流通販売担当部長	小倉 明	細菌ウイルス課	課長	市沢 三香
043-223-2803	次長	石野 利明		上席専門員	松本 敦子
043-223-2804	次長	湯橋 勤		専門員	大坪 岳彦
				専門員	福井 聡子
畜産課	〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 FAX:043-222-3098			技師	関根 大介
部署・TEL	職名	氏名		技師	佐藤 隆裕
043-223-2931	課長	松木 英明	技師	松本 千明	
043-223-2929	副課長	上村 順一	東部家畜保健衛生所	〒283-0064 東金市川場1105-3 TEL:0475-52-4101 FAX:0475-52-3335	
043-223-2930	副課長	山田 美代子	部署	職名	氏名
企画経営室 043-223-2926 043-223-2927 043-223-2777 043-223-2921	主幹兼室長	富田 耕太郎	衛生指導課	所長	中根 崇
	主幹	川村 治朗		次長	渡邊 和彦
	副主幹	児安 良子		主幹	井出 基雄
	副主幹	江森 美香		課長	道本 昌信
	主査	森原 宏史	防疫課	副主幹	田村 容子
	主査	櫻井 紀夫		副主幹	金子 晴壽
	副主査	青柳 真澄		上席専門員	千葉 耕司
	副主査	藤川 英一郎		専門員	中代 浩之
	副主査	平山 愛		専門員	平野 亨
	技師	阿部 敬		主任技師	渡部 美穂子
技師	佐多 美香	課長事務取扱		渡邊 和彦	
生産振興班 043-223-2939	班長	島田 純		上席専門員	笠井 史子
	副主幹	嶋村 和彦		上席専門員	猪俣 一陽
	主査	鎌田 望		技師	土肥 世生
	副主査	野村 俊介	技師	小高 宏貴	
環境飼料班 043-223-2943 043-223-2944	班長	市原 裕二	南部家畜保健衛生所	〒296-0033 鴨川市八色52 TEL:04-7092-2304 FAX:04-7092-1434	
	副主幹	菊地 里佳	部署	職名	氏名
	副主査	松本 友紀子		所長	羽毛田 稔
	技師	田仲 景士郎	衛生指導課	次長	芦澤 尚義
技師	沼尾 真人	課長		原 普	
家畜衛生対策室 043-223-2923 043-223-2938 BSE対策本部 043-223-3084	副技監兼室長	岡田 望		副主幹	齊藤 満
	主幹	青木 茂		副主幹	長田 貴
	副主幹	坂元 依子		副主幹	柴田 祥子
	副主幹	藤野 晴彦		技師	瀧口 由貴
中央家畜保健衛生所 〒262-0011 千葉市花見川区三角町656 TEL:043-250-4141 FAX:043-236-0090	副主査	吉田 喜一郎	技師	矢嶋 真二	
	部署・TEL	職名	氏名	課長	江森 格
		所長	高橋 岩雄	上席専門員	平島 淳
		次長	林 治実	技師	島田 圭悟
庶務課	主幹	青木 ふき乃	技師	小形 次人	
	課長	大畑 清	技師	松原 芳絵	
	主査	寺田 賢二	北部家畜保健衛生所	〒287-0004 香取市岩ヶ崎台12-1 TEL:0478-54-1291 FAX:0478-54-5996	
衛生指導課	課長	篠原 栄里子	部署・TEL	職名	氏名
	専門員	相田 洋介		所長	笠井 貞義
	専門員	高崎 舞	衛生指導課	次長	片山 雅一
	技師	上林 佐智子		課長	武石 佳夫
防疫課	課長事務取扱	林 治実		副主幹	伊能 生子
	副主幹	小島 洋一		上席専門員	橋本 能子
	主任技師	西川 潤		専門員	関野 友利華
	技師	小山 祐介		主任技師	今関 智恵
〒285-0072 佐倉市岩富町497 TEL:043-498-1431 FAX:043-498-1475				技師	三浦 良彰
病理生化学課	次長	陰山 潔		技師	橘 美奈子
	課長	石原 勇人		課長	畑野 克巳
	副主幹	原 康弘		副主幹	稲毛 幹雄
	副主幹	小川 明宏	主任技師	塚原 涼子	
	専門員	関口 真樹	技師	中山 雄大	
			技師	関谷 圭美	
			技師	山桐 慶之	

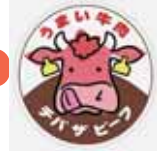
畜産総合 研究センター	〒289-1113 八街市八街へ16-1 TEL:043-445-4511 FAX:043-445-5447		部署	職名	氏名
	部署	職名	氏名	研究員	伊藤 香葉
養豚養鶏	センター長	鈴木 邦夫	養豚養鶏	研究員	新垣 裕子
	次長	吉田 裕三郎		研究員	細野 真司
	次長	檜山 学		研究員	吉敷 芙友子
				(兼)研究員	八木 健
総務課	課長事務取扱	吉田 裕三郎	畜産総合研究センター 市原乳牛研究所		
	副主幹	佐原 徳之	〒290-0531 市原市国本602		
	主査	井濱 健太郎	部署	職名	氏名
	主査	並木 俊雄	TEL:0436-96-1231 FAX:0436-96-0956	所長	村田 宏之
	主事	本多 栞		主幹	小野寺 道寛
企画環境 研究室	室長	細谷 肇		副主幹	鳥海 三佐子
	主席研究員	杉本 清美		主任上席研究員	齊藤 公一
	主席研究員	鈴木 一好		主任上席研究員	永福 和明
	主任上席研究員	齊藤 健一		主任上席研究員	反町 裕
	上席研究員	丸山 朝子		研究員	進藤 彰
	上席研究員	青木 大輔		研究員	加藤 久美子
	研究員	長谷川 輝明	畜産総合研究センター 嶺岡乳牛研究所		
研究員	名取 美貴	〒299-2507 南房総市大井686			
乳牛肉牛 研究室	研究員	八木 健	部署	職名	氏名
	室長	石崎 重信	TEL:0470-46-3011 FAX:0470-46-3012	所長	福島 達哉
	主席研究員	小林 正和		主幹	渡邊 晴生
	主席研究員	川嶋 賢二		主席研究員	山下 秀幸
	主任上席研究員	山口 倫子		副主幹	石井 眞利子
	研究員	村田 美里		主任上席研究員	平尾 明
	研究員	佐野 実乃里		研究員	小林 大誠
研究員	藤沼 淳也	研究員		行川 貴浩	
養豚養鶏 研究室	室長	脇 雅之			
	主席研究員	高橋 圭二			

農業事務所名	課名	所在地	職名	氏名	TEL	FAX
千葉農業事務所	企画振興課	〒266-0014 千葉市緑区大金沢町473-2	副主幹	柴田 るり子	043-300-1985	043-293-3916
	改良普及課		主査	岩澤 進		
			普及指導員	君塚 時江	043-300-0950	043-293-2710
東葛飾農業事務所	企画振興課	〒277-0861 柏市高田990-1	技師	中島 有美子	04-7143-4122	04-7144-8260
	改良普及課	〒277-0005 柏市柏255-1	主事	須賀 正太	04-7162-6151	04-7162-6154
印旛農業事務所	企画振興課	〒285-0026 佐倉市鎗木仲田町8-1	副主幹	杉本 裕	043-483-1129	043-485-9502
	改良普及課		技師	青木 朋子		
			技師	渡邊 世奈		
			GL・主任上席普及指導員	宮本 光浩	043-483-1128	043-485-9502
			GL・主任上席普及指導員	平野 和則		
	主任上席普及指導員	五十嵐 福男				
香取農業事務所	企画振興課	〒287-0005 香取市佐原木1250-3	技師	本多 正隆	0478-52-9192	0478-54-5617
	改良普及課	〒287-0005 香取市佐原木1250-2	技師	上田 俊平	0478-52-9195	0478-55-1703
			普及指導員	岸田 雅弘		
	普及技術員	溝井 つかさ				
海匝農業事務所	企画振興課	〒289-2504 旭市二1997-1	副主幹	八木 由紀夫	0479-62-0156	0479-64-2502
	改良普及課		主査	古屋 聡子		
			普及指導員	丸山 武則	0479-62-0334	0479-62-4482
			普及指導員	有路 優子		
山武農業事務所	企画振興課	〒283-0006 東金市東新宿1-11	副主幹	安川 葉子	0475-54-1122	0475-55-8614
	改良普及課		主任上席普及指導員	鈴木 清治	0475-54-0226	0475-52-7914
			普及指導員	村中 洋美		
長生農業事務所	企画振興課	〒297-0026 茂原市茂原1102-1	副主査	大河原 澄香	0475-22-1751	0475-26-2234
	改良普及課		主任上席普及指導員	伊藤 郁子	0475-22-1771	0475-25-2061
夷隅農業事務所	企画振興課	〒298-0293 夷隅郡大多喜町猿稻14	技師	末政 奈津美	0470-82-4956	0470-82-5348
	改良普及課		普及技術員	小池 広明	0470-82-2213	0470-82-3975
安房農業事務所	企画振興課	〒294-0045 館山市北条402-1	主査	渡辺 聡	0470-22-7131	0470-22-0097
	改良普及課		主査	田中 なほ子		
			主任上席普及指導員	金子 貴一	0470-22-8132	0470-22-0097
			普及指導員	吉田 明広		
			普及技術員	中原 祐樹		
君津農業事務所	企画振興課	〒292-0833 木更津市貝淵3-13-34	技師	小林 夏奈子	0438-25-0107	0438-23-6698
	改良普及課		主任上席普及指導員	大塚 洋功	0438-23-0299	0438-23-6698



チバザビーフ協議会報

チバザビーフ協議会は千葉県産の「うまい牛肉」のPR活動を行っています。



第3回チバザビーフ枝肉共励会及び前夜祭開催

平成26年2月24日～25日にかけて第3回チバザビーフ枝肉共励会及び前夜祭が開催されました。

前夜祭には、農水省・千葉県・県議連盟等関係者及び食肉関係者、生産者、報道関係者等併せて99名が参加され盛大に行われました。

なお、初めての試みとして、昨年度の最高買参人に記念品が贈呈されることとなり、小川興業株式会社へ楯が送られました。また、『お肉応援隊』の香蓮さんを招き、お肉の応援歌を披露。会場をおおいに盛り上げました。

今年の千葉県産おもてなし牛肉は、千葉若潮牛のサーロイン（サイコロステーキ）と八千代ビーフ（ローストビーフ）が用意され、来場者に振舞われました。

【前夜祭】

会場：第一ホテル東京シーフォート 3階「ハーバーサーカス」
日時：平成26年2月24日（月） 18：00～20：00
出席者数：99名



昨年度の最高買参人
小川興業株式会社



おもてなし牛肉『千葉若潮牛』サーロイン
（サイコロステーキ）



おもてなし牛肉『八千代ビーフ』（ローストビーフ）



『お肉応援隊』香蓮

枝肉共励会では和牛の部 最優秀賞に実川治徳氏、交雑の部 最優秀賞に木下正己氏がそれぞれ選ばれました。

今回、銘柄牛からは北総牛が、またノンブランドの方が初めて出品されており、平成28年度の東京食肉祭りに向けて活動に厚みが出てきたように思います。（事務局 小倉）

【枝肉共励会】

会場：東京都中央卸売市場食肉市場 市場棟2階・センタービル8階
日時：平成26年2月25日（火） 8：00～12：00
出品頭数：52頭（和牛の部 30頭、交雑の部 22頭）
入賞者一覧：

		出品者	1代祖	2代祖	3代祖	ロース 芯	バラ 厚	BMS	枝肉 重量	単価	枝肉金額
和牛の部	最優秀賞	実川治徳	勝忠平	安福久	平茂勝	90	9.2	11	549	2,330	1,279,170
	優秀賞1席	江口幸太郎	北平安	茂勝	平茂勝	70	9.8	11	540	2,163	1,168,020
	優秀賞2席	宮澤武志	勝忠平	福之国	安平	77	10.8	11	604	2,052	1,239,408
	優良賞1席	長崎善右	茂洋	勝忠平	北国7の8	74	8.8	10	511	1,849	944,839
	優良賞1席	伊藤茂雄	第1花園	福栄	紋次郎	64	8.8	9	549	1,897	1,041,453
交雑の部	最優秀賞	木下正己	北乃大福	-	-	65	8.7	8	580	1,648	955,840
	優秀賞1席	塙正一	北乃大福	-	-	66	9.0	7	569	1,518	863,742
	優秀賞2席	越川和行	北茂安93	-	-	54	8.4	6	542	1,426	772,892
	優良賞1席	増田俊一	千水	-	-	58	8.8	5	575	1,377	791,775
	優良賞1席	宇井憲二	北国安福	-	-	65	9.0	6	650	1,315	854,750



CHEF MEAT CHIGUSA Co.,Ltd

株式会社シェフミートチグサ

〒262-0012 千葉県千葉市花見川区千種町210-5

TEL: 043-259-3705 URL: www.chefmeat.co.jp/



ちば畜産レディースネットワーク会報 通算第13号

モ～モ～フ～フ～コケッコ～

千葉県内の畜産に携わる女性のみなさんの会報です。

活動記録

1 農山漁村いきいき研修会への参加

- ・平成26年2月12日(水) 午前10時～午後3時、千葉市民センター
- ・千葉県農山漁村女性団体ネットワーク主催
- ・レディース会員等7名参加、尾形副会長が6次産業化に向け取り組んでいる試作品の提供、アンケートやハチミツ製品を販売し、好評のうちに完売した。

活動予定

1 平成26年度総会・情報交換会の開催

平成26年度の総会等を次のとおり予定しております。

- (1) 日時：平成26年7月1日(火) 11:00～15:00
- (2) 会場：合同会社 エストーレホテル東金
〒283-0801 千葉県東金市八坂台1-8
TEL:0474-55-1111 FAX:0475-55-1112
- (3) 総会： 11:00～11:50
- (4) 向日葵の宴： 12:00～13:30 向日葵の咲きほころぶ季節の宴(会費3,000円)
- (5) 情報交換会等：13:40～15:00



昨年の総会及び情報交換会の様子

会員だより

『白黒つけるぜ！CowMix！』

よっちゃん牧場 CowMixリーダー 伊藤真子



隣のクラスの同窓会に呼ばれたのをキッカケに旦那と出会い、結婚。就農して3年目になります。よっちゃん牧場で酪農業をしながら、水稻(10ha)の田植え、稲刈り作業や直売所に畜産物を出しています。以前はプログラマーや事務をしていたので、今までの経験を活かしたく、よっちゃん牧場HPの立ち上げ、お米の袋のデザイン、牧場の看板、マスコットキャラクター作成、営業と直売所での販売と進めてきました。それでも普段の仕事をしながらだったので思うように進まない1年目でもありました。

そんな中おっかさんが勧めてくれた畜産レディースネットワークに加入。女性のパワーに感銘を受けました。とにかく皆さん元気。気さくで良い方ばかりで酪農、養豚、養蜂、養鶏と色んな人と関わる中に良い刺激をもらいました。そして、實川恵子ちゃん、須藤由紀乃ちゃんとお会い、若くて可愛くて頑張っている子と知り合えたのが本当に嬉しかったです♪

畜産のイメージは汚い、臭い、危険、キツイと3Kも4Kも揃っています。嫁に来ると無理やりに働かされる、給料もない、同居を迫られる、男を産めと無言の圧力がある等、今はそんな農家は少ないと思いますが(笑)そうした理由で嫁不足や後継者不足に悩んでいる農家さんが大変多いという事も、この世界に入らないとわからなかった事です。実際、まだそんな農家さんもいるようです。ビックリ!

そして、TPP問題。全く話は平行線で今現在進展はありません。不安要因も改善点もまだまだ沢山ある世界かも知れません。

そんな一次産業を明るく楽しく盛り上げよう!生産者と消費者の壁を無くそう!と若い子や世間が興味を持ってくれるようにと由紀乃ちゃん、恵子ちゃんと共に立ち上げたのが『畜産ガールズユニットCowMix』です。去年10月に畜産フェアでデビュー。畜産レディースの皆さんの温かい応援に励まされ、本当に感謝、感謝です。まだ半年くらいしか経っていませんが色んな方の応援のおかげで反響も大きく、来月には新曲もリリースさせて頂くことになりました。歌って踊るだけではなく、ネット番組制作も始動しました。美味しい畜産物の紹介や牛乳レシピ、お悩み相談等、まずはYouTube配信から始めます。1人でも多くの方に畜産という仕事を正しく知って頂き、また地方の農家さんは畜産レディースの皆さんのようには表に出れず、狭い世界に閉じこもってしまいがちだとお聞きしています。そうした方により良い風が入っていくように、いきなり大きな事は出来ないけれど、仕事と並行しながらCowMix、農業女子プロジェクトの活動も頑張っていきます!畜産レディースにも新しい方が来たら温かく迎えるので、仲良くなれたらうれしいです♪若い子沢山入ってほしいですね♪



N P C 通信

ナイスポークチバ推進協議会



1 自民党養豚議員懇話会開催

JPPA役員・関係者が参加し「養豚農業振興法案」状況報告

平成26年2月24日(月)都内四ツ谷所在の主婦会館プラザエフにおいて大島理森会長、葉梨康弘事務局長以下28名(本人22・秘書6)が出席され開催されました。



冒頭、大島会長からシンガポールにおけるTPP交渉に触れ、「カードを切るのは米国、日本ではない。交渉は大変厳しい状況は変わらない。4月にオバマ大統領が来る。しっかりした交渉をお願いしなければならない。また農政大改革の中で、飼料米の問題については豚肉生産の中で活用願ひ、品質、安全、

安心な豚肉の生産に会長として皆様をお願いした。」との挨拶がありました。

TPP交渉へ参加されているJPPA志澤会長に代わり、栗木会長代行から、「この度の豪雪により200カ所を超える養豚場で豚舎・ハウス・処理施設等で被害がでている。TPP交渉の中で、差額関税制度の堅持、厳格運用をお願いしており、しっかり守られれば生産者にとって大変良い制度である。また、「養豚農業振興法案」の早期国会成立についてお願いした。」との挨拶がありました。

また政策検討委員長から「エコフードをはじめ国内由来飼料を一番活用できるのは養豚。生産コストを仮に米国1とすると、ヨーロッパ2、日本は3掛かる。輸入飼料の高止まりと物流面でのハードルは高い。また、ふん尿処理・規制問題があるなかで、今後飼料米生産での堆肥活用など耕畜連携の推進により養豚農業振興にも繋がる。」と養豚産業への力添えを要請しました。

議事は、葉梨事務局長から「養豚農業振興法案」について資料の説明があり、参議院農林水産委員長：野村哲郎参議院議員(鹿児島県)からは高止まりしている配合飼料価格について、「配合飼料基金制度が時世に合わなくなっており、畜酪小委員会の中にこの制度

の在り方について検討するワーキングチームが発足した。このチームには養豚議員懇話会のメンバーも含まれており、今後も皆さんの意見を聞きながら6月までに結論を出したい」と挨拶がありました。



また、衆議院農林水産委員長：坂本哲志衆議院議員(熊本県)からは、「飼料米について、養豚・ブロイラー・採卵業界に大きな期待をよせている。養豚農業振興法を6月のJPPA総会までに成立させる覚悟で臨みたい。」と挨拶されました。

会議終了後、自民党養豚議員懇話会の先生方との恒例の日本のおいしい豚肉を食す会が開催されました。

今回飼料米を利用して生産された豚肉として全国から7銘柄が提供され、しゃぶしゃぶ、とんかつなど豚肉料理を肴に養豚振興・TPP問題など先生方との交流を図りました。

2 県議会自民党畜産振興議員連盟と養豚産業の理解を求め情報交換会開催

平成26年2月25日(火)千葉市内京成ホテルミラマーレにおいて開催されました。

県議会自民党畜産振興議員連盟(会員30名)から16名の出席に対し、養豚関係者19名が出席しました。開会に際し、県議会自民党畜産議連伊藤 勲会長、NPC平野拓歩会長から主催者挨拶、来賓として県松木英明畜産課長、(公社)県畜産協会新城恒二専務理事からそれぞれ挨拶を頂き情報交換に入りました。

最初に(一般)日本養豚協会(JPPA)顧問 木下寛之先生から『養豚をめぐる情報と養豚農業振興法

《養豚農業振興法案の概要説明》

【養豚農業とは・・・?】(第1条)

- ・国民の食生活の安定に寄与し、及び地域経済に貢献する重要な産業であること
- ・食品残さを原材料とする飼料の利用等を通じて循環型社会の形成に寄与する産業であり養豚農業の振興を図り、養豚農業の健全な発展に資する。

【国内由来飼料とは・・・?】(第2条2項)

- ・食品残さ又は国内において生産された飼料用の米穀等を原材料とする養豚に係る飼料。

【農家の経営の安定とは・・・?】(第4条)

- ・養豚農家の経営の安定を図るための生産基盤の整備、災害の予防の推進等。

【国内由来飼料の利用増進とは・・・?】(第5条)

- ・養豚農家が国内由来飼料等の提供者に関する情報にアクセスしやすくするための施案、飼料製造業者による国内由来飼料の生産の促進等。

【豚の飼養衛生管理の高度化とは・・・?】(第6条)

- ・高度飼養衛生管理手法の導入に対する支援、豚の排せつ物処理の高度化の取り組みに対する支援、豚の疾病に対する検査体制の整備等。

- 【安全で安心して消費できる豚肉の生産の促進及び消費の拡大とは・・・?】(第7条)

- ・豚肉の品質向上に関する研究開発の推進及びその成果の普及、特別な銘柄の豚肉等の生産情報の提供の促進等。

【豚肉の流通の合理化とは・・・?】(第8条)

- ・豚肉の産地処理の推進、豚肉の取引規格及び品質表示の普及等。

【援助とは・・・?】(第9条)

- ・養豚農家が基本方針に即した経営を行うことができるようにするための必要な情報の提供、助言、指導、財政上の措置等。

が目指すもの』として基調講演をいただきました。①日本農業における畜産の地位②豚の飼養動向と需給価格③飼料穀物の輸入④経済連携協定の交渉状況⑤TPP交渉分野とその内容⑥養豚農業振興法案の目指すもの等説明されました。その中で「養豚農業」は、我が国農業の中でどのような位置づけにあるのか、国の施策や予算配分がそのような位置づけにふさわしいのか、経営安定対策は十分と言えるのか、今後の「養豚農業」の在り方はどう描けばよいのか、などに疑問を投げ、振興法は作れば良いのではなく、そこからどう描いていくかが重要であると講演されました。

今回数年ぶりの情報交換会を開催し、今後の養豚振興に繋げる会となりました。会議の後は、同フロアにて県産豚肉4銘柄による豚肉試食（しゃぶしゃぶ・とんかつ）会を開き、豚肉・豚の話でより親交を深めました。



情報交換された主な内容

- (1) 昨年後半から豚枝肉価格が高値で推移している。輸入量が減少したと聞いているがどうなのか。
- (2) 飼料米は養豚での活用が期待されているが、どの程度飼料への配合が可能なのか。
- (3) 飼料米の利用で飼料自給率をどの程度カバーできるのか。
- (4) 畜産物の輸出状況はどうか。
- (5) 振興策では後継者問題が大切ではないか。後継者についてどのように考えるか。

3 日豪EPA豚肉の関税削減発表

基準価格を超えた輸入価格にかかる従価税が現行の4.3%から2.2%へ

4月7日、オーストラリアのアボット首相と安倍首相との会談で大筋合意した日豪EPA交渉の概要が4月17日農水省から発表された。交渉での最大関心事が牛肉であったことから、牛肉の合意内容はすぐに新聞報道されることとなったが、豚肉を含むその他の品目の関税削減については両国事務方の調整を行い第2弾として10日後の発表となった。

現在、オーストラリアから我が国への牛肉・豚肉の輸入は右表の通り。豚肉は年間700トンほどの量で、日本への豚肉総輸入量は約76万トンに対して0.1%に満たない僅かな量である。

【過去3年間のオーストラリアからの輸入量】						
	牛 肉			豚 肉		
	輸入量 (t)	輸入額 (千円)	単価 (kg当)	輸入量 (t)	輸入額 (千円)	単価 (kg当)
2010年	351,501	135,946,993	387	831	468,585	564
2011年	339,267	134,242,699	396	663	374,796	565
2012年	318,905	127,400,360	399	704	394,427	560

※牛肉:2012年の総輸入量は514,687トン、オーストラリアからの輸入割合は62%
 ※豚肉:2012年の総輸入量は778,245トン、オーストラリアからの輸入割合は0.1%

今回合意に至った豚肉の関税削減は、

豚肉の差額関税制度における、3つの税のポイント（従量税部分、差額関税（基準価格）部分、従価税部分）のうち“基準価格（部分肉でkg当り524円）”を超えた輸入価格にかかる“従価税”を現行4.3%から2.2%に削減するというもの。これは約10年前のメキシコFTAでの決着と同じだ。“輸入基準価格524円を守る”国内養豚の生産費のハンデキャップを埋めることになることから、生産者への影響は軽微なものと考えられる。問題は現在進行中のTPP交渉の行方だ。アメリカとの2国間交渉でアメリカは豚肉の関税撤廃を求めてきている。このオーストラリアとの交渉結果が歯止めになってくれれば、日本の養豚生産者への影響はかなり軽減されることになる。今後の状況を注視しながら、JPPAでは引き続き差額関税堅持の要請を行っていく方針である。（JPPA通信167号抜粋）

4 TPP豚肉関税堅持への要請

平成26年4月16日（水）東京で開催が予定されていた、日本の畜産ネットワーク主催による「国際交渉から国内畜産を守り抜く緊急集会」は日豪FTA交渉の経過等諸般の事情により急遽開催中止された。この状況を受け4月9日からTPPに関する米国との交渉で「重要5項目」を含む農産物の関税が最大の焦点となることから、（一社）日本養豚協会（JPPA）は各役員、県組織を通じ地元国会議員に対し強く要請するよう手配しました。

これを受け、NPCは、自民党国会議員で創る養豚議員懇和会のメンバーである、衆議院議員 森英介、林幹雄両先生に加え、地元衆参国会議員8名の先生に対しても要望書を提出しました。

本来であれば直接先生と面談し、要望の主旨を説明したうえでお願いすることが筋とは考えておりましたが、県北東部に飛び火した豚流行性下痢（PED）の蔓延が深刻な状況であることからその旨を記し、郵送による要請を行いました。（事務局 加藤）

【要請を行った千葉県選出自由民主党国会議員】

- 衆議院議員 森 英介（11区） 林 幹雄（10区）
- 浜田靖一（12区） 櫻田義孝（8区）
- 齋藤 健（7区） 松野博一（3区）
- 白須賀貴樹（13区）
- 参議院議員 石井準一 猪口邦子 豊田俊郎

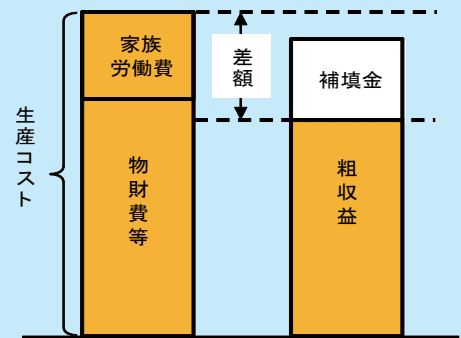
【要請内容の要点】

- (1) 重要5品目である豚肉の国境措置に関して、現行の差額関税制度の堅持、そして国による制度の厳格運用を強く要請する。
- (2) TPP交渉および各国との経済連携協定等において、現行の差額関税制度の3つの税ポイント、従量税（部分肉で482円）、輸入基準価格（524円）、従価税（4.3%）のいずれにおいても、1円および1%たりとも下方に修正しないよう強く要請する。

平成26年度養豚経営安定対策事業（全国肉豚）

《事業の内容》

- 積立割合 生産者：国＝1：1
 補填割合 粗収益と生産コストとの差額分の8割
 対象者 養豚経営者（耕畜連携、エコフィードの活用等の取組に努めようとする者）※大企業は除きます。
 内容 ①養豚経営の安定を図るため、粗収益が生産コストを下回った場合に、生産者と国の積立金から差額の8割を補填します。
 ②粗収益と生産コストは四半期終了時に計算されます。
 ③当該四半期に発動がなかった場合は、次の四半期に通算して計算されます。
 ④補てん金交付の早期化のため、希望者に対する概算払いを導入。
 （4～6月分であれば、8月末の交付を8月上旬の交付に約3週間早期化）



《事業実施期間》

平成23年～28年度（6年間）

《1頭あたり積立金》

26年度 1,000円/頭（うち生産者負担金：500円/頭）

《事業継続の手続き》

- 提出期限：5月30日（金）消印有効 提出先：(独)農畜産業振興機構
 提出書類：■**継続して事業参加する者** 「養豚経営安定対策事業参加要件・事業対象頭数確認書」＋添付書類
 ※(独)農畜産業振興機構より生産者の情報が記載されたものが送られてきます。
 ■**事業参加を中止する者** 「養豚経営安定対策事業参加辞退届出書」

平成26年度の事業対象頭数：①と②のいずれが多い方が上限となります。

- ①25年度の販売実績頭数×係数100/105（販売実績頭数が2,000頭未満の方は、係数100/100）
- ②25年度の事業対象頭数

平成26年度養豚経営安定対策事業（県補助）

養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産を確保するため、養豚経営安定対策事業における生産者積立金の一部を助成します。（生産課 金杉）

平成26年度予算 76,000,000円 H25：1,076,489頭（契約頭数）×助成額70円/頭＝75,354,230円

- 新規職員紹介 -

◇ 総務・企画部 主事 長嶋柚子 ◇

平成26年3月に千葉県立千葉商業高等学校を卒業し、4月から千葉県畜産協会に入会しました、長嶋柚子（ながしまゆず）と申します。商業高校で学んだ知識と、部活動で培った集中力や忍耐力などを活かし、一生懸命仕事に取り組みたいと思います。よろしくお願ひします。

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています。

「食の安全・安心」のための第1歩は、「法令遵守」であることを改めて認識してください。

部 署	TEL	FAX
総務・企画部	総務課	043-238-1255
	企画課	
事業部	経営・環境課	
	衛生指導課	
	生産課	

Eメール：info@chiba.lin.gr.jp

URL http://chiba.lin.gr.jp